

令和2年度 家庭教育支援プログラム指導者研修① 実施報告

実施日：令和2年5月27日（水）

新型コロナウイルス感染防止のため、「3密」回避対策、受付時の健康チェックなどを行い、実施しました。

【午前の研修】

- 開講式
- 説明「とちぎの家庭教育支援と親学習プログラム」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 針谷 英子



本県の家庭教育支援施策について説明がありました。その後、本県が家庭教育支援の場で活用をすすめている親学習プログラムについて、開発された経緯やその特徴に関する説明がありました。

参加型学習の形態をとることで、どのような効果が期待されるのか、よりよい学びの場とするために指導者はどのような役割を担うのかなど、冊子の内容に結びつけながらの説明だったので、受講者は親学習プログラムについて理解を深めることができました。

- 演習「参加型学習と家庭教育支援」 総合教育センター職員

参加型学習の意義や効果、ファシリテーターの役割に関する説明がありました。中には、参加型学習やファシリテーターという言葉は初めて聞いたという受講者もあり、これからの研修でさらに学びを深めてもらいたいです。

【午後の研修】

- 講話「家庭教育の現状と、その支援に向けて」
宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授 土沢 薫 氏

人間と動物の子育てのスタイルの違いから始まり、日本の子育て事情の全般的傾向、母親の観点からみた子育て事情など、様々な視点から子育てに関するお話がありました。また、家族観の多様化や現代のストレス社会における虐待との関係性と増加傾向の理由、コロナ禍における家族と子育ての関係など、たくさんのお話を学びました。そして、子育て中の家庭が抱える様々な課題は尽きることがない現実についても改めて考えることができたようです。

様々な情報や事例などを交えた具体的な説明に、大きく頷きながら話を聞く受講者の姿が多く見られました。



「3密を避けるため、座席の間隔を確保しています。」

- 演習「よりよい関係づくりワークの体験」 上都賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 神山 幸江
安足教育事務所ふれあい学習課 副主幹 近藤 正和



親学習プログラムでも実際に用いる「アイスブレイク」について説明がありました。

最初に親学習プログラムにおけるアイスブレイクの意義を聞き、その後、会場全体でできるアイスブレイク、グループ作りのアイスブレイク、自己紹介で使えるアイスブレイクなど、映像を使用しながら用途に応じたアイスブレイクを受講者は学びました。受講者自身が実際にアイスブレイクに触れ、その必要性や効果などを実感したようです。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育における現状と課題について大変勉強になりました。地域における子育て支援の必要性や子どもたちを取り巻く環境に対し、私たちが地域と一緒に行動を始めないといけないと思いました。
- ・家庭教育の必要性や親学習プログラムの概要などについて、理解することができました。また、ファシリテーターが重要な存在であることも勉強になりました。今後に生かしていきたいと思います。
- ・地域の子育てを支えたいという人の存在と現代社会の中で子育て支援が重要であることを学びました。
- ・わかりやすい講話でした。初心に戻り、復習することができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp